

# 県内公立小中学校の副教材選定問題について



昨年実施された小学校6年生、国語Aの全国学力テストの結果が国ワースト1という結果は、私を含め学校や先生を信頼していた保護者にとっても、衝撃的なものでした。

県下では長い間、公立小中学校で活用している、学校指定の補助教材(テスト・ドリル・ワーク・資料集等)の一部が、特定の出版社に片寄っているとのことから、我が自民改革会議ではこのこともテスト結果に何らかの影響があったのではないか、との視点で、学校ではどのような補助教材を活用して学力向上を図っているか、その実態の公表を求めて来ました。

当初、県教育委員会は、この件は、市町村教育委員会の権限と責任において判断されるものとして調査に消極的でありましたが、公表の必要性を継続的に取り上げた結果、約1年経過した9月議会でその結果を公表しました。

その結果は、下図表の通りで「静岡教育出版社」のシェアが突出している実態が明らかになりました。

従来の事業仕分けに代る事業レビュー(市町・民間との連携に関する議論)の中でもこの問題は取り上げられ、その結果、校長会や教員が深くコミットする教材研究の成果を、教育出版社が独占的に利益を得る仕組み以外の方法も検討の必要があり、さらに教材を選定する側(学校長)が、選定される側(校長会が参画する静岡県出版文化会)との間に、不透明な関係としての疑念の見直し等の意見がまとまりました。

県内公立小中学校で採択された単元テスト  
教科別の静岡教育出版社のシェア(単位:%)

学校	教科	学年	2013年度	2014年度
小学校	国語	1~6年	84	60
	算数		86	67
	理科	3~6年	86	68
	社会		93	82
中学校	国語	1~3年	98	91
	数学		95	92
	理科		93	92
	社会		96	94
	英語		93	92

※県教委が県議会に提出した資料を基に作成

## 教員関与「倫理違反」の声

### 県議 文教警察委 副教材問題を追及

全国学力テストの結果に端を発した副教材の選定問題が審議された8日の県議会文教警察委員会で、2013年度に県内公立小中学校で採択された単元テストは全主要教科で8割以上が静岡教育出版社のグループの発行だったことが明らかになった。教員がこれらグループから報酬を得て教材作成に関与する実態に、複数の県議から「公務員の倫理規定に違反するのではないか」などと疑念の声が上がった。

県教委が同日公表した、出版社の小学校での採択率によると、国語、理科の3教科は84~86%で、「静岡」が98%を占めた。中学校では、国語、数学、理科の3教科は93~96%で、「静岡」が93%を占めた。

一方、中学校は13年度、英語を含む主要5教科で93~98%、14年度も91~94%の高割合を維持した。

審議では「外形的な教育委員会では、状況を見守り、自民改革会議の良知淳行氏(静岡市)が、多数の教員が休日に報酬を受け取って教材作成に関与している実態を指摘した。良知氏は「職務上知り得た情報について県民の知る権利を保障する」とも述べた。

---

## 副教材選定、透明性検証

### 県が調査 チーム年明けにも結果報告

昨年の全国学力テストの結果に端を発した副教材(補助教材)の選定問題で、県は8日に調査チームを立ち上げた。調査チームは、県内の公立小中学校で採択された副教材について、透明性の検証を進めている。年明けにも結果を報告する方針を明らかにした。

調査チームは、県内の公立小中学校で採択された副教材について、透明性の検証を進めている。年明けにも結果を報告する方針を明らかにした。

---

## 学テの都道府県別結果公表

### 県教育長「是正を促す」

安撫県教育長は8日、都道府県別結果を公表する現行の実施方法を批判し、透明性を高めるべきだと求めた。

県教育長は「是正を促す」と述べた。調査チームは、県内の公立小中学校で採択された副教材について、透明性の検証を進めている。年明けにも結果を報告する方針を明らかにした。

---

## 伊藤氏「男の意識改革こそ必要」

### 「やり方が20年変わらない」

政機関の女性管理職を中心に200人を対象とした調査で、男性の意識改革が必要だと指摘した。伊藤氏は「男の意識改革こそ必要」と述べた。

これを受け、知事は副教材選定に関する透明性などを検証する、副知事をトップとする「補助教材作成・選定・評価方法調査チーム」を発足し、その調査結果を近いうちに報告することとなりました。

今後、地域の将来を担う子供たちの為にも、全国でも特異な副教材の作成、供給の仕組みについての調査結果を注視してまいります。





# 良知あつゆき 活動報告

自民党厚生問題対策連絡協議会委員としての活動の中、平成26年11月18日に、連絡協議会に参加させて頂きました。

関連団体の皆様より平成27年度予算に対する要望をお伺い致しました。自民党県連役員及び静岡県健康福祉部管理局も参加の中、様々な内容についての具体的な要望をお受けいたしました。今後、積極的に取り組んでまいります。



## ○ご要望を頂いた団体名（敬称略）

公益財団法人静岡県病院協会・公益社団法人静岡県柔道整復師会・公益社団法人静岡県看護協会・静岡県看護連盟・公益社団法人静岡県薬剤師会・一般社団法人静岡県助産師会・一般財団法人静岡県食品衛生協会・静岡県社会福祉協議会・静岡県民生委員児童委員協議会・静岡県社会福祉法人経営者協議会・特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会・静岡県保育所連合会・静岡県児童養護施設協議会・一般財団法人静岡県老人クラブ連合会（シニアクラブ静岡県）・静岡県老人福祉施設協議会・静岡県知的障害者福祉協会・静岡県手をつなぐ育成会・公益財団法人静岡県精神保健福祉会連合会・静岡県福祉医療施設協議会・静岡県救護更生施設連絡協議会・市町社会福祉協議会連絡連合会・一般社団法人静岡県社会福祉士会・一般社団法人静岡県子ども会連合会・静岡県保育士会・静岡県母子生活支援施設協議会・静岡県乳児院協議会・静岡県里親連合会・公益財団法人静岡県母子寡婦福祉連合会・静岡県地域包括・在宅介護支援センター協議会・一般社団法人静岡県介護福祉士会・静岡県ホームヘルパー連絡協議会・特定非営利活動法人静岡県介護支援専門員協会・一般社団法人静岡県社会就労センター協議会・社会福祉法人静岡県身体障害者福祉会・静岡県筋ジストロフィー協会・社団法人静岡県肢体不自由児（者）父母の会連合会・静岡県肢体不自由児協会・静岡県自閉症協会・静岡県聴覚障害者親の会・特定非営利活動法人静岡県作業所連合会・わ

## 「自民党厚生問題対策連絡協議会参加議員」

- ・（自民党県連役員）大石哲司・宮沢正美・藪田宏行
- ・（厚生問題対策連絡協議会）小楠和男・竹内良訓・宮城也寸志・中沢公彦・良知淳行

## 「要望事項抜粋」○公益社団法人静岡県看護協会・静岡県看護連盟

- 1、看護職の確保・定着・再就業を可能とする労働条件及び環境改善に対する支援
- 2、施設・在宅領域での医療ニーズに対応する看護職への支援
- 3、地域の保健・医療ニーズに応える看護の質向上への支援
- 4、看護基礎教育の質向上に対する支援
- 5、「特定行為に係る看護師の研修制度」導入に関する体制整備

会議の場においても、夜間を含む業務内容の職場環境の改善や、子育て中の看護師が育児と仕事を両立できる環境整備についてなど切実な問題についての現状を改めてお伺いいたしました。別に行った病院・施設視察において、志太榛原地域の病院視察にお伺いさせて戴いた際も各病院とも、地域医療の向上にスタッフ一丸となって努められている中、医療の現場を支える看護師の質の向上と、人材の確保についての危機感を持ち、独自の対応をとられている現状を学んでまいり、早急な対応の必要を感じました。国をはじめ関連機関への働きかけを行ってまいります。

## 「水産施策に関する勉強会」へ参加

平成26年12月10日 静岡県水産振興推進協議会主催

「参加議員等」（参議院議員）牧野京夫・岩井茂樹（静岡県知事）川勝平太（静岡県議会水産議員）森 竹治郎・中澤通訓・深澤陽一・天野 一・相坂撰治・大石哲司・藪田宏行・三ツ谷金秋・良知淳行  
「参加団体」

静岡県漁業協同組合連合会・静岡県信用漁業協同組合連合会・静岡県水産加工業協同組合連合会・静岡県漁船保険組合・静岡県漁業信用基金協会・静岡県漁港漁場協会・静岡県漁業振興基金・JF 共済推進本部（共水連静岡支店）・全国合同漁業共済組合県事務所・県漁連伊東地区運営委員会・県漁連賀茂地区運営委員会・県漁連各地区運営委員会

「静岡県」  
静岡県経済産業部・静岡県交通基盤部

勉強会では、漁港の取り組み事例として、「いとう漁港」の6次産業化、低利用魚の付加価値向上、魚食普及への取組、「伊豆漁協」の、6次産業化及び経済基盤強化、また、「田子の浦漁協」の水産業と観光産業との連携についての事例について学んでまいりました。

さらに、県漁連として、長引く漁業環境の低迷で多くの漁業協同組合が本来機能の発揮が困難な状況になっている中、この状況を脱するためには、漁業・地域の活性化が必要で、改めて漁業等系統組織の果たす役割が重要ととらえ、その原動力となる職員の意識改革と併せマネジメント能力の習得を目指して各種研修等の取り組みを積極的に行っている現状の説明を頂きました。

自由意見交換では、各団体から様々なご意見が活発に出されました。静岡県水産加工業協同組合連合会様より、東日本大震災に伴い各種制度等による資金が東北地方の漁港に集中したことにより、東北地方の漁港の衛生管理等の設備改善が急激に進んだ現状と、反面、静岡県内では対応のための資金の工面が困難で整備が遅れ、今後、水産物の流通の流れが東北地方に片寄ってしまう危機感を覚えるというご意見を頂きました。当日は知事も参加されておりましたが、第三種特定漁港を抱える地元として、この点についても積極的に対応してまいります。

ふるさとにっこり通信 第10号 平成27年1月号

静岡県議会議員 県政を身近にもっと良く知ろう

良知あつゆき県政報告

目指すは「ふるさと暮らし満足度日本一」のまちづくり

良知あつゆき公式ブログをご覧ください。活動内容をご報告しています。

検索 良知あつゆき 思ったこと

<http://rachiatsu-yuki.eshizuoka.jp/>

